

經濟論叢

第 150 卷 第 1 号

高寺貞男教授記念號

献 辞	瀬地山 敏	
二つの貨幣価値変動会計	中 居 文 治	1
土地保有利得税の会計学的考察	醍 醐 聰	20
近世会計実務からみた現代会計理論	西 川 登	42
持分法適用政策の財務的背景	小 野 武 美	57
戦略的投資決定の理論について	山 本 昌 弘	72
先物取引の会計現象	澤 邊 紀 生	88
会計観の選択と概念フレームワークの構築	藤 井 秀 樹	114

高寺貞男 教授 略歴・著作目録

平成 4 年 7 月

京都大學經濟學會



高寺貞男 教授 近影

高寺貞男 教授 記念論文集

献 辞

高寺貞男先生は、1992年6月1日に63歳の誕生日を迎えられ、1993年3月31日をもって本学を退官されることとなりました。

先生は、1953年に京都大学経済学部を卒業されて以来、ひき続いて、本学部に残られ、やがて会計学の講座をご担当になって今日に到られました。

先生は、若いときから自己の専攻分野を「会計理論・会計政策・会計史」と宣言されていたように、会計学の広範な領域をひとりでもカバーされながら、伝統的枠組を超えた潜在的諸問題を研究テーマとするために、会計学の関連領域（とくに経済学と社会学）の研究成果を積極的に取り入れて、過去に「あった会計」または現に「ある会計」を説明する記述的会計理論と未来に「あるべき会計」または「ありうる会計」を代替会計として構想する規範的会計理論の統合を志向して、会計と市場・組織の相互関係の構造化理論によって社会制度としての会計の制約性と可能性を探究されるという壮大な「高寺会計学」のヴィジョンを展開されました。そして、英米の会計学術誌の編集委員を歴任されていることにみられるように、日本のみならず世界の会計学の革新に貢献されています。

他方、先生は研究と教育にとどまらず、本学の行政面においても経済学部長、評議員の重責を果されるとともに、学部の発展のために多大のご貢献を賜りました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功労とご業績に対して、心からの敬意と感謝の念をこめて、ここに記念号を編集いたしました。先生のご指導を受けられた研究者のうちの若干の人々の労作を集めて、先生に捧げることができましたことは、わたくしどものこのうえない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のため、ご活躍くださいますことをこころからお祈りいたします。

1992年6月10日

京都大学経済学部長 瀬 地 山 敏